

胃がんの原因であるピロリ菌について注意すること

～感染時期と感染経路をふまえて

内視鏡診療部 部長 引地拓人

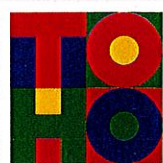
現在、日本では年間で約12万人が胃がんにかかり、約5万人が胃がんで亡くなっています。この胃がんの原因のほとんどが、ピロリ菌です。したがって、胃がんを予防するためには、敵であるピロリ菌対策を行うことが大切であり、ピロリ菌の感染時期と感染経路を知らなくてはなりません。

感染時期は、乳幼児期であり、成人になってから感染することは稀です。乳幼児期は、胃酸を分泌する胃の細胞（壁細胞と言います）が十分機能していないため、胃内に酸が充満していません。そのために、本来胃酸が嫌いなピロリ菌が胃内で生存できることになり、退治をしない限り、永久に住み着くこととなります。また、ピロリ菌にも遺伝子が異なる様々なタイプがあるのですが、家族間（特に母親と子供）でピロリ菌のタイプが一致することから、乳幼児期に両親からの何らかの影響でピロリ菌感染が生じると考えられています。

しかし、ピロリ菌の感染経路は、残念なことによく分かっていません。口から胃に入り込んでくることは容易に想像できますが、少なくとも食べ物から感染するわけではありません。上下水道の整備とともにピロリ菌の感染率が低下していることから、汚染された水が原因である可能性があります（以前言われていた井戸水からの感染は否定的です）。実際、生まれた年代でみると、1950年以前生まれの方のピロリ菌感染率は40%以上であるのに対し、1970年代生まれで20%、1980年代生まれで12%です。このように、ピロリ菌の感染経路は、乳幼児期に一番身近にいる方（両親が多い）との関係と生活環境が影響していることは確かであるようです。

ピロリ菌に関して注意することは、胃がんの発生が増加してくる50歳代の前に検診などで内視鏡検査を受け

て、胃がんがないかと同時に、ピロリ菌がいるかどうかを調べてもらうことです。内視鏡検査での胃の見え方だけでピロリ菌がいるかが推測できますし、見え方で判断しにくい場合でも、血液検査や呼気検査などでピロリ菌を調べることができます。その上で、ピロリ菌に感染していれば、1週間薬を飲むだけの治療で退治することができます。いったんピロリ菌を退治できれば、再度感染する心配はほとんどありません。また、除菌治療を受けてピロリ菌を退治することで、胃がんになることを予防できる可能性があります（ただ、胃がんにならないわけではありません）。また、ピロリ菌の感染時期は乳幼児期であることから、結婚前にはピロリ菌を調べて、感染があれば退治することが望ましいと思います。皆さん自身の胃がん予防と共に、皆さんの子供へピロリ菌を感染させないことにもつながります。



すべてを地域のために

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331（受付時間：平日午前9時から午後5時）

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

